

## 大会宣言（案）

新型コロナウイルス感染症のパンデミックで、社会全体が翻弄されて二年が経過した。

今、私たちが直面しているコロナ禍は、これまでの生活様式や働き方など、労働者とその家族の生活に大きな変化をもたらしている。私たちの活動も多くの集会・会議を中止せざるを得ない中、ウェブによる取り組みが定着する一方で、議論することの大切さ、相談し合える人間関係の重要性を再認識した。

コロナ禍は、社会基盤の脆弱性を浮き彫りにし、公共サービスは社会に不可欠な存在として再認識された。しかし、公共サービスの職場は、行き過ぎた行財政改革による「効率化」「スリム化」の追求により、業務量に見合わない人員配置が恒常化した。そしてコロナ禍の今、職員の献身性によってようやくサービスの提供が維持されていると言って過言でない。慢性的な人員不足に苦しみながらも、住民の安心・安全な生活のため、公共サービスを支え続けている組合員の思いに寄り添った取り組みの推進が一層求められている。

このような情勢のもと、都本部は、第 71 回定期大会を開催し、2022 年度運動方針を決定し、厳しい情勢を切り開くため、運動を推進していくことを確認した。

第一に、「仲間をつなぎ、増やす」運動の推進である。組合員の声を反映した要求により徹底した交渉を行い、職場課題の解決をはかる中から、新規採用者の組織化や役員の担い手育成を進め、組織強化・拡大をはかっていく。

第二に、公共サービスの拡充と労働条件の改善である。公共サービスに従事する労働組合としての社会的責任と役割を果たすため、公共サービスの重要性と普遍性を社会的に喚起するとともに、コロナ禍を契機として、質と量の拡充をはじめとする良質な公共サービスの実現とそれを支えるにふさわしい賃金・労働条件と人員の確保にむけて取り組みを強化する。

第三に、政治活動の重要性の共有化と第 26 回参議院議員選挙闘争の推進である。労使交渉だけでは、医療・福祉・子育て・人権など、健やかで安心な生活を守ることはできない。職場における日常の組合活動では乗り越えられない課題を解決することが、政治活動の推進の目的である。このことを組合員と共有し、7 月に実施される第 26 回参議院議員選挙における自治労組織内候補「鬼木まこと」さんの必勝を勝ち取るため、全力で取り組む。

都本部は、各単組とこれまで以上に連携を強化し、本大会で確認した方針の実現にむけて、組織の総力を挙げてたたかい抜く。

以上、宣言する。

2022年3月5日

自治労東京都本部第 71 回定期大会